



2015.11.30 No.20

—目次—

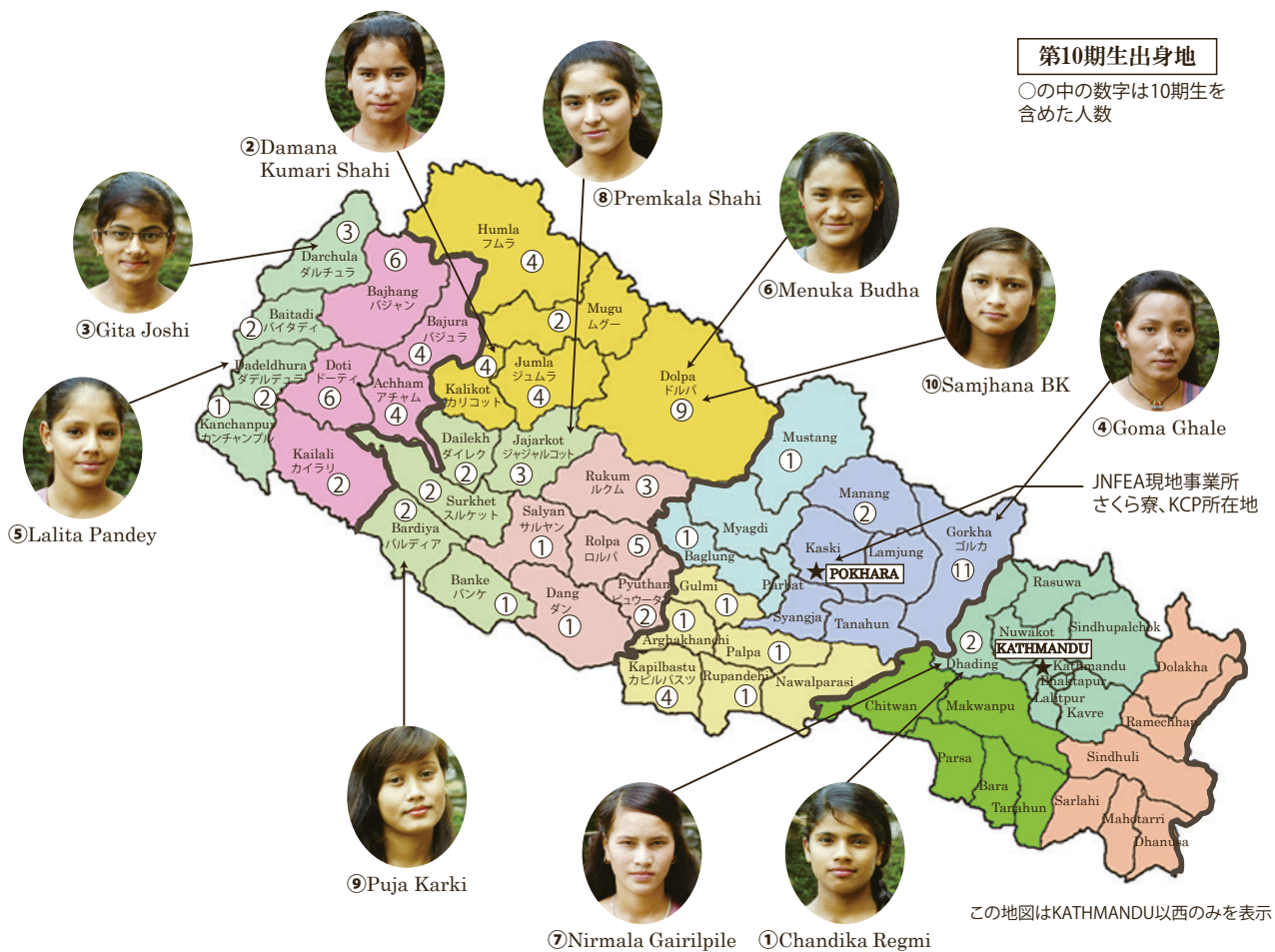
- ・第8期卒業生が巣立ちました 1
- ・第10期生の紹介：選考委員会報告、出身地、家族のことなど 2
- ・2015年度ポカラプロジェクト現地理事会報告——山下泰子 山下威士 4
- ・2014年度さくら寮決算報告——山下威士 6
- ・認定資格の有効期間が満了しました——山下泰子 7
- ・大地震義捐金の配布について 7
- ・地震被災地を訪問して（大地震から1か月後）——新井場貞子 矢野可穂理 8
- ・ネパール（ゴルカ）の地震にあつて——カマラ・グルン 9
- ・私たちの見た大地震被災地の様子 11
- ・大木章次郎神父様に感謝して——山下泰子 12
- ・第8回Follow-Up Seminar 2015 報告——深田洋子 岩谷榮子 12
- ・交換留学生（スジャータ・アチャリヤ カマラ・グルン）について 14
- ・支援団体からの寄稿文——全国退職女性校長会（梅の実会） 15
- ・ポカラ便り——新井場貞子 16
- ・2016年 訪問授業および赴任地訪問の予定——今村美知子 今村務 吉田英子 18
- ・〔理事会コーナー〕さくら寮10周年記念チャリティーツアーのご案内 19
- ・故郷を再興させる——クリシュナ・カティワダ 20
- ・Topics & News 21
- ・クリシュナ日記 新しい国作りを考える 23
- ・Nepalあれこれ 23
- ・さくら寮通信・JNFEA 活動報告 24
- ・編集後記 26

第8期卒業生が巣立ちました

4月25日に起きた大地震で、延期されていた期末試験も無事終わり、6月13日、第8期生の卒業証書授与式を挙りました。卒業旅行は、6月15日、日帰り、なんでも願い事をかなえてくれると評判の「マナカマナ寺院」を訪れ、敬虔な祈りをささげました。生まれて初めて乗るロープウェイにはしゃぎ、簡素でしたが、楽しく過ごしました。10月、卒業試験は全員合格、それもかなりいい成績との知らせをうけました。



第8期生
バリジュー先生を囲んで



第10期生の選考

7月8日、さくら寮において第10期生の選考委員会を実施。応募者は28人でしたが、その内のSLC試験をパスした者19人、および、特例として、4月25日の地震で大きな被害を受けた、ダーディン郡からの2名を選考対象として、10名を選考しました。SLCの成績上位者、教員継続の可能性(3年間のJNFEAからの給与支給期間後)が高い者などを加味して決定しました。

さくら寮生選考委員会委員 理事 岩谷栄子

	名前	出身地	生年月日
1	Chandika Regmi	Dhading	9 Oct 2000
2	Damana Kumari Shahi	Kalikot	6 Nov 2000
3	Gita Josh	Darchula	9 Oct 1998
4	Goma Ghale	Gorkha	20 Aug 1997
5	Lalita Pandey	Dadeldhura	20 Jan 1999
6	Menuka Budha	Dolpa	9 Aug 1999
7	Nirmala Gairirpile	Dhading	29 May 1997
8	Premkala Shahi	Jajarkot	31 Aug 1996
9	Puja Karki	Bardiya	9 May 2000
10	Samjhana BK	Dolpa	30 Aug 1997

第10期生の紹介（家族や村のことなど）

氏名（出身地） 生年月日

質問事項

- ①家族の教育事情。
- ②住んでいる村の女の子の就学について。
- ③住んでいる村のA,問題点とB,解決法。
- ④住んでいる村の良い点。
- ⑤村からポカラまでの交通手段。
- ⑥卒業後赴任する学校の名前と状況について。
- ⑦どんな先生になりたいか。

1. Chandika Regmi (Dhading) (9 Oct 2000)

- ①父母、読み書きできる。姉、大学2年生。兄、12年生。
- ②全員学校へ行く。
- ③A,仕事がなく、若者は海外へ出稼ぎに行く。
B,農業、トレーニングを受ける必要がある。
- ④男女平等に考えている。村で何かあれば、皆で一緒に働く。
- ⑤バス停 (Adamghat) まで徒歩15分→ポカラまでバスで5時間。交通費、500ルピー。
- ⑥Satyawati高等学校
1～12年生、生徒数960人。先生23 (女8、男15) 人、良い点；トイレ、飲み水、グラウンド、教室も十分あり勉強する環境は良い。椅子、図書室、先生が不足。
- ⑦子どもに優しく教える先生になって、将来を明るくしてあげたい。

2. Damana Kumari Shahi (Kalikot) (6 Nov 2000)

- ①父、11年生まで。母 5年生まで。
- ②全員学校へ行く。
- ③チャウパディの慣習の問題がある。これを改善するには教育が必要。村人に指導すれば、変化は可能です。
- ④農作業の時、助け合いの習慣がある。
- ⑤バス停まで徒歩1時間→Surkhetまでバスで12時間→ポカラまで17時間、交通費、2,700ルピー。
- ⑥Satyadevi 高等学校
1～12年生、先生16 (女3、男13) 人、環境は良い。
- ⑦良い先生になって、1～5年生までにネパール語を教えたい。

3. Gita Joshi (Darchula) (9 Oct 1998)

- ①父、8年生まで。母、読み書きできない。
- ②全員学校へ行く。
- ③A,村には仕事のない人が多い。
B,教育を広めて仕事も教える。
- ④皆、一緒に仲良く暮らしている。
- ⑤徒歩でバス停Airichhanaまで4時間→Mahendra nagarまでバスで17時間→ポカラまでバスで18時間、交通費、2,200ルピー。
- ⑥Latinath高等学校 (Chandanpur)
1～12年生、先生35 (女5、男30) 人、Darchula 郡でモデル校として知られてる。
- ⑦良い先生になって、ネパール語を教えたい。

4. Goma Chale (Gorkha) (20 Aug 1997)

- ①父母とも死亡。兄、教育をうけて、今外国に出稼ぎに行っている。兄嫁は教育を受けていない。農業。
- ②全員学校へ行く。
- ③A,仕事がなく村の半分以上の若者は、外国へ行く。半分は農業。子どもに、勉強よりも、仕事を優先する親もいる。
B,教育を広めて、皆に仕事のことも考えてあげる。たくさん勉強して、良い人材を育てるように指導する。
- ④皆で一緒に仲良く、お互いに仕事を手伝う。
- ⑤徒歩でSotiまで2日→Arughatまでバスで1時間半→Gorkhaまでバスで4時間半→ポカラまでバスで4時間、交通費、605ルピー。
- ⑥Budhda高等学校 (Filim) 地震被災
1～10年生、生徒数400人。先生19 (女9、男10) 人、良い点は、良い建物が3棟ある。AAFの支援校。男女別のトイレ、コンピューターもあり、冬はシャワーを浴びるのにお湯が出る。問題点は、決まった時に学校が開かない。寒い時も休みはない。Dasain祭とTihar祭の間、学校を休む。
- ⑦良い先生になって、1～5年生にヘルス、体育を教えたい。

5. Lalita Pandey (Dadeldhura) (20 Jan 1999)

- ①父、10年生まで。母、5年生まで。
- ②全員学校へ行く。
- ③A,村には仕事がない。
B,教育と同時に仕事も教える。
- ④皆助け合っている。カースト制度などはない。
- ⑤徒歩で、バス停Jogbudhaまで1時間→Attariyaまでバスで5時間半→ポカラまでバスで19時間、交通費、1,260ルピー。
- ⑥Bhageshwar 高等学校
1～12年生、生徒数600人。先生20 (女1、男18) 人、良い点；先生の数は十分、教育の質も良いし、学校は清潔。村人は先生のために、お金を自分たちで払っている。
- ⑦良い先生になって、1～5年生までにネパール語を教えます。

6. Menuka Budha (Dolpa) (9 Aug 1999)

- ①家庭環境は良いほうです。兄妹は4人。妹、9年生、弟、7年生。
- ②全員学校へ行く。
- ③A,村にチャウパディの慣習がある。仕事がない。
B,ソーイングのトレーニングをやらせる。他のトレーニングも考える。チャウパディをなくすことも大切。
- ④皆、お互いに助け合いがある。
- ⑤徒歩でDunaiまで2日間→Nepalgunjまで飛行機で45分→ポカラまでバスで18時間 交通費、9,450ルピー。
- ⑥Kalika 高等学校 (Kalika 4, Jethatol)
1～10年生まで。生徒数500人。先生16 (女1、男15) 人、良い点；グラウンドもあり、教室も足り

ている。問題は、図書館がないこと。

⑦良い先生になって、ネパール語と社会を教えたい。

7.Nirmala Gairipile (Dhading) (29 May 1997)

①父母とも読み書きができない。

②皆学校へ行く。

③A,仕事がなく、若い人の多くは外国へ仕事に行く。

B,農業やソーイング、織物などの仕事を教える必要がある。

④男女平等に見える。村人は皆、仲が良い。

⑤徒歩でDhadingbesiまで3時間→ポカラまでバスで5時間。交通費、500ルピー。

⑥Shanka Devi 高等学校 (Patle) (地震被災)

1～10年生まで。生徒数 400人。先生13 (女2、男11)人、良い点;トイレやグラウンドもあり教室も足りている。問題点;椅子や机が足りない。運動道具、本もない。

⑦1～3年生までにネパール語を教えたい。良い子に育てたい。

8.Premkala Shahi (Jajarkot) (31 Aug 1996)

①父母は教育を受けていない。兄8年生まで勉強。弟11年生。家の経済は貧しい。

②皆、学校へ行く。

③A,仕事がない。教育程度が低い。

B,教育指導する。外国への出稼ぎを止める。

④皆でお互い助け合う。

⑤徒歩でKhalangaまで3時間→Rakamまでバスで2時間→Chhinchuまでバスで2時間→ポカラまでバスで19時間 交通費、1,750ルピー。

⑥Bijaya 高等学校 (Punma 3chhipr, Kafalchaury)

1～10年生まで。生徒数450人。先生14 (女3、男11)人、良い点;休日が少ない。先生も仕事をさぼらない。生徒はまじめ。問題点;経済、飲み水の問題、運動具がない。

⑦良い先生として知られたい。毎日学校へ行って、できることを子どもたちに教えたい。1～8年生にネパール語を教えたい。

9.Puja Karki (Bardiya) (9 May 2000)

①5人家族で長女。父9年生まで勉強。母は教育を受

けていない。妹7歳、弟3歳。農家ですが、父は糖尿病で仕事ができず、小さい店をもっている。

②皆、学校へ行っても、経済問題で小学校か中学校までしか勉強しない。

③A,農業だけでは生活ができないので、外国へ出稼ぎに行く。

B,仕事が身につく教育が大切。

④女の子も男の子も学校へ行く。村の人は仲良くしている。

⑤徒歩でバス停まで5km→Nepalgunjまでバスで30分→ポカラまでバスで17時間。交通費、1,050ルピー。

⑥Bageshwari小学校 (Jamuni 4, Bardiya)

1～5年生まで、生徒数150人。先生、男のみ5人。良い点;トイレ、飲み水、グラウンドもあり、授業も問題なくスムーズに行われる。問題点;清潔でない。先生も遅刻してくる。女の先生がいない。

⑦小さい時から子どもと遊ぶのは好き。教科書もそれ以外の事も皆にいろいろ教えたい。数学と英語を教えるのが好き。子どもにたくさん良いことを教えて、毎日学校に来させるようにしたい。

10. Samjhana BK (Dolpa) (30 Aug 1997)

①父は読み書きだけできる。我が家は教育が遅れている。

②皆、学校へ行く。

③A,村には仕事がない。教育も遅れ、カースト差別がある。家の中で喧嘩がたえない。

B,人間は平等だということを教える必要がある。

④皆、お互いに助け合う。

⑤徒歩で空港まで1時間→Nepalgunjまで飛行機で45分→ポカラまでバスで15時間 交通費、5,450ルピー。

⑥Balmandir小学校 (Dunai 1, Dolpa)

1～5年生まで、生徒数400人。先生7 (女6、男1)人。校長は女性、そんなに問題はない。授業はスムーズにでき、週1回課外授業がある。

弱点;男の子は私立学校に行かせ、女の子は公立。あまり清潔でない。いつも同じ制服を着る。

2015年度ポカラプロジェクト現地理事会報告

山下泰子・山下威士

<JICAネパール事務所訪問> 8月26日 (水)、JICAネパール事務所を訪問し、前半は、清水勉所長、富松愛加さんと「フィーダーホステル耐震化リニューアル案」について意見交換をし、後半は、NGOデスクの西前紀和子さんと打合せをした。

<クリシュナさん、マンジュさんとの会談> 8月27日 (木)、さくら寮でクリシュナ・カティワダ現地マネージャーとマンジュ・ドージュ寮母と、今後のさくら寮の運営について話し合った。①クリシュナさんの故郷のDhading郡が4.25大地震の被災地となったことから、彼は郷里の復興のために働くことを希望されたので、彼とのマネージャー契約を、11月末をもって解消することにし、その後は、マンジュさん



が、2017年6月まで寮生が居る間は、マネージャー業務をも兼務することになった。②大きな問題になったのは、2016年度のフォローアップ研修の実施と「10周年記念行事」の日程でしたが、10月17～19日フォローアップ、フォローアップ最終日に10周年報告会、20日に10周年記念行事をすることに決まった。

＜現地理事会の開催＞ ②8月28日（金）、ポカラ・プロジェクト現地理事会を、さくら寮ホールで開催。出席者は、ネパール側は、理事長Yogendra Lal Pradhan（KCP理事長）さん、運営委員会委員長Bharjoo（KCP理事）先生、KCPの新学長に就任されたSuresh Kumar Manandhar先生、新しくカニア・スクールの校長先生に就任されたGansh Prasad Poudel先生。日本側は、山下泰子（JNFEA理事長）、山下威士が出席。陪席は、JNFEA現地マネージャー・クリシュナさん、寮母マンジュさん、KCP会計係 Krishna Tamrakarさん。

(1) 最初に、新理事として、Manandhar先生とPoudel先生の紹介。

(2) Bharjoo議長より①2014年度会計報告、②今年のさくら寮第10期生の選考委員会（7月17日開催）の選考結果報告。

(3) 山下（威）より、2015年度さくら寮予算の概要を説明。観光地Pokharaにおける諸物価の高騰で、食費の値上げが話題になり、ある程度考慮せざるを得ないと思われました。また、政府の教員採用試験に対応するために、卒業生教員が、予備校に通って、試験の準備をする費用を助成するプランは、好評のために、今年は大幅に拡充することにした。

(4) 山下（泰）JNFEA理事長より、JNFEAの近況を報告。まず、4.25大地震について、お見舞いのことばを述べ、JNFEAとしても、大地震義捐金を、5月1日より7月31日まで、日本全国に呼びかけ、その集った義捐金を、被害を受けた、さくら寮卒業生教員、その勤務先の学校、さらには、関係の学校にお贈りしたことを報告した。また、第4期日本留学生Sujata Acharyaさんが、1年間の日本での研修を終えて、無事に帰国したこと、彼女が、日本各地で大活躍をし、非常に良い印象を与えたこと、第5期留学生として、Kamala Gurungさんが、日本に到着し、新井場貞子理事の自宅で、1か月間日本語研修と日本の暮らし体験を行ったことを報告した。さらに、さくら寮の今後の運営について、2017年7月以降は、さくら寮の維持・管理の責任は、基本的にKCPとなるが、従前からの約束に基づき、本プロジェクトの終了する2020年6月までは、秋のフォローアップ・セミナー（1週間程度）に使用させてもらいたいこと、および、2020年6月の本プロジェクト終了までは、さくら寮の2階の、現在、Manjuさんが使用している部屋を、JNFEAの事務室（備品・資料室）として、利用させてほしいと提案した。また、来年2016年秋のフォローアップ研修時に、「さくら寮開設10周年式典」を開催したいという企画が語られた。

(5) KCPの新学長Manandar先生から、ごあいさつがあった。今回の大地震では、KCPも、大きな被害を受け、その改修に、JNFEAの力をお借りしたい。また現在、被災地から、KCPに入学を希望する学生が3名いるが、JNFEAの協力を得られないかとのことでした。これらについては、山下（泰）理事長が、検討を約束した。

(7) 最後にPradhan理事長より、締めくくりのあいさつがあった。

＜理事長とさくら寮生＞ ①現地理事会の終了後に、例年のように、山下理事長が、最後の新生生に対して個別面談を行う。また、翌日8月29日（土）には、さくら寮で、寮生全員で、「二十四の瞳」の大石先生について語り合い、遠隔地域の女性教員の使命についての自覚を促した。その後、タカリ・レストラン Kaligandakiで、にぎやかに新生生の歓迎パーティを開催。この費用は、宮原巍ポカラ・プロジェクト理事からのご寄付から支出。

＜大使公邸での小川正史大使との会談＞ 8月31日（月）、日本大使公邸で、小川正史大使主催の夕食会に招待された。JNFEAの目的を、深く理解してくださった小川大使が、私どもだけでなく、私どもの課題に関係する重要な方々をご招待。小川大使以下の大使館メンバーに、ネパール側として、Hari Prasad Lamsal教育省教育局長、ネパール教育界で最高顧問的な位置をもっているKedar.B.Mathema元・駐日ネパール大使、それに、日本とネパールの双方の教育界の事情に通じているAmira Daliラブ・グリーン・ネパール代表が出席。

山下（泰）理事長より、今回のネパール訪問の目的は、現地理事会の開催と合わせて、大地震への対応、とくにFeeder Hostelの再建についての協議を行いたいことにあると説明。それに対して、Hari教育省

教育局長より、教育省としても、女性の教育は、重要と考えているが、その政策の中でも、Feeder Hostelを現在のままの目的に使用するのではなく、人身売買の被害者の収容施設や、父母のいない子どもたちのための養護施設にしたいという考え方もあると説明。基本的に、この大使館の会談全体を通じて、Feeder Hostelリニューアルへの助成の姿勢は、弱いものと思えた。



＜女性教員養成制度の構築：政策提案＞ 会談の中で、小川大使から重要なお指摘があった。それは、現在、設立目的のあいまいになっているFeeder Hostelに対応するよりも、JNFEAの本来の目的である「ネパールにおける女性教員養成制度の導入」そのものを、具体的には、「女子師範学校制度の創立」を提案したほうが、適切ではないかというご示唆でした。もちろん、そのような、大きな制度が、短い期間でできるわけではなく、多くの専門家の叢智を集めることが必要となろうが、それにしても、誰かが、その口火を切らない限り、歩みは始まらない。その意味で、まさに、JNFEAこそは、さくら寮での10年間の実績を背景に、そのような政策提案をするのに、最適ではないか、とも。そのような政策提言は、日本政府としても、十分、検討に値するはずだとも語られました。

私どもも、この小川大使のご示唆は、JNFEAにとって、まことに、適切なものであり、この政策提言こそが、私たちのプロジェクトの成果となるべきものであり、是非、来年のさくら寮開設10周年式典で具体案を発表したいと思いました。



2014年度さくら寮決算報告

〈Re =ルピー〉

山下威士

L.K.Sharma会計事務所の2015年8月13日報告による。

単位は、Rs (ネパール・ルピー) 2015年9月現在 1Rs=1.22円

- (1) 2014年度予算総額、4,798,991Rsに対し、総決算実額は、予算内に納まりました。
- (2) 予算を出超した項目は、I－(1)のKCP納入金でしたが、これは、予算では計上していなかった「コンピューター実習」を、12年生に受講させたための出金でした。
II－(5)の食費も、オーバーしましたが、これは、ポカラでの物価の値上がりのためでしょう。
予算より減額だった項目は、いずれも実額で、II－(7)の旅費と、III－(11)の寮維持費でした。
- (3) 寮生1人あたりの月額直接的援助額は、奨学金＋食費＋光熱水料で、合計3,500Rsになります。
- (4) 卒業生教員の月額給与は、1年目の教員が、5,500Rs、2年目の教員が、6,000Rs、3年目の教員が、6,500Rsです。

I	KCP関連	519,297
	(1) KCP納入金	411,600
	(2) 英語・数学の補習授業	42,000
	(3) 学生募集費	65,697
II	学生関連	945,678
	(4) 奨学金	337,500
	(5) 食費	414,094
	(6) 学生の制服	8,000
	(7) 学生の旅費	94,507
	(8) 健康診断、医療保険	41,904
	(9) 卒業式関連費	49,673
III	さくら寮維持費関係	235,435
	(10) 光熱水料	87,531
	(11) 修理等維持雑費	147,904
IV	雇員の賃金関係	469,400
	(12) 寮母給与	169,000
	(13) ガードマン (3名) 給与	257,900
	(14) 会計係手当	32,500
	(15) 会計事務所監査費用	10,000
V	卒業生教員給与関係	2,442,500
	(16) 卒業生教員給与	2,312,500
	(17) 教員採用試験対策費	130,000
	合計	4,612,310

認定資格の有効期間が満了しました

本協会が、2010（平成22）年10月16日に、国税庁より授与された「認定特定非営利活動法人」資格が、5年間の有効期間を満了し、本年10月15日をもって終了いたしました。この間、当協会への寄付金が税金控除対象になり、とくに、本年4月25日に発生したネパール大地震に対する義捐金に、これが適用されたのは、ありがたいことでした。

この認定につきましては、所管が東京都に移りましたので、私どもは、昨年5月より資格再取得のための相談を開始しておりました。過去3年間のすべての寄付金帳簿の点検も終えて、本年2月に申請書類の提出にまいりましたところ、認定資格についての法規定の解釈に、私どもと当局とに見解の相違があることが判明し、やむなく今期の申請を断念せざるを得ませんでした。

今後は、本協会は、「特定非営利活動法人」として、従来通りに活動を続けます。引き続きどうぞよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人日本ネパール女性教育協会 理事長 山下泰子

大地震義捐金の配布について

前号の発行（5月20日）直前4月25日に起きたネパールの大地震に際し、急きょ皆様に義捐金のお願いをいたしましたところ、大勢の方からご支援いただき、7月末までに700万円を超える義援金が寄せられました。

この配分について、JNFEAでは慎重に考慮した結果、さくら寮およびさくら寮の卒業生と現役学生で被災した者、および、その勤務する学校と関係する学校に配分することいたしました。

そして、地震後1か月後の5月25日から約1か月にわたり、卒業式に参列の目的でネパールを訪問した山下理事長と新井場副理事長が、第1次被害調査も兼ね、関係する被災地を視察してきました。7月、第10期生選考委員会に出席した岩谷事務局長による第2次調査、そして、9月には、矢野理事がさくら寮生への訪問授業を兼ね、5か月後の復興の様子を見てきました。委細は、本号に掲載。



ネパール大地震義捐金の状況；中間報告

2015年10月8日現在

1 大地震義捐金の入金状況

JNFEAは、5月1日～7月31日まで、4月25日発生 of ネパール大地震によって被災したさくら寮、および、JNFEA関係者・関係学校を救援するための義捐金の募金を行いました。その結果、408件（2度、3度と重複して、寄附してくださった方も含めての延べ数です）、総計7,027,879円の募金をいただきました。

2 ネパールへの送金状況

8月16日までに、合計600万円を、この大地震義捐金関係のためのネパールのヒマラヤ銀行ポカラ支店の銀行口座に振り込みました。

3 具体的な配布状況

現在までに、以下のような支出を行いました。

- | | | |
|-------------------------------|-----|-----------------------|
| A さくら寮卒業生教員や在寮生などの被災個人への直接配布金 | 13件 | 550,000Rs (=671,000円) |
| B A以外の、JNFEA関係の被災個人への直接配布金 | 5件 | 124,230Rs (=151,561円) |
- *被災地からのKCP入学希望者3名への初年度学校納入金の給付を含む。

C さくら寮卒業生教員や在寮生、および、JNFEA関係の学校建物の修理・再建のための直接配布金	5件	2,899,016Rs(=3,536,800円)
D 支援物品費 *緊急用ソーラー・ライトを購入し、配布。	3件	125,715 円
E 支援費活動費 *被災現地に入るためのネパール国内の交通費や宿泊費、大地震義捐金へのお礼状・領収書郵送料や銀行送金手数料などの間接経費。	10 件	186,025 円
<u>(既払分以上合計 4,671,101 円)</u>		

4 今後の配布予定

今後も、これまでの基準に準拠し直接配布金、支援物品費、支援活動費の支出を行う予定。

F さらに、さくら寮と KCP の建物の修復・修理、耐震化・補強工事を予定。

5 なお大地震義捐金についての経理は、2016年3月末までに処理を行い、2016年度に入って最終報告を行う予定です。

地震被災地を訪問して（大地震から1か月後）

世界遺産が…

理事 新井場貞子

5月25日、JNFEAの年次総会の翌日、山下理事長とさくら寮担当理事の新井場は、成田を出発し、ネパールに飛びました。本来なら、第8期生の卒業式の実施が目的でしたが、今回は、現地では卒業試験も延期され、卒業準備もできず、被災地の事情視察とさくら寮訪問が、目的となりました。

カトマンズの空港に降り立ち、ホテルに向かう道すがら、垣間見た建物の倒壊の様子に胸打たれました。訪問のたびに行く、旧王宮のあるダルバール広場とその周辺の様子が、変りはて、レンガと土、がれきの山になっていて、その周囲には住民のテントが立ちならぶ光景には、報道でみたとはいえ、言葉ありませんでした。

ホテルに、地震当時からカトマンズにいる第1期生のラミラ・ブダさん（バジャン出身）、第3期生で病気の母親に付き添って滞在し、被災したアンビカ・マラさん（ジュムラ出身）が、訪ねてきました。アンビカさんは、臨月のおなかを抱え、病院の庭に張られたテントで過ごしているとのことでした。さっそく持参の見舞金とお見舞いの品を、2人に渡しました。アンビカさんは、その2日後出産し、約3週間ほどカトマンズに滞在していました。

2日後、現地マネージャー・クリシュナさんの村、

ダーディン郡のアダンタールと文京学院大学の山下ゼミ生とさくら寮生が交流したパトレ村を訪問しました。ここは、震源地ゴルカに隣接する地域で、被害の大きなところです。アダンタールの村の様子は、あらかじめクリシュナさんが写真などを送っていたので、想像がつかいましたが、やはり、つぶれた家の前の鶏小屋や、家畜小屋で生活している村人の様子には、胸つぶれる思いでした。学校は、地震後約1か月、ようやく仮設の小屋を作り始めていました。

その後、ただ、山肌を切り崩しだけの凹凸の激しい道を車で約1時間、パトレ村に行きました。山下理事長にとっては懐かしい村で、ゼミ生たちと学校の生徒たちとの交流やホームステイをした村です。村の家の90%が倒壊し、がれきの山でした。島田燐子文京学園学園長や山下理事長、伊藤ゆきさんたちが、村の発展のためにと寄贈した、校舎、トイレ、水場は、跡形もなくなっていました。どんな景色の村だったのかわかりません。学校は、かろうじて使える部屋3教室ほどを使って授業を始めようとしていました。ここにも見舞金の一部とソーラーライト、Tシャツ、タオルなどを差し上げてきました。その後、この2校（アダンタール村、パトレ村）には、各々日本円で100万円ずつを寄贈しました。

思い出のパトレ村を訪問

理事 矢野可穂理

2015年9月25日朝6時半にさくら寮に別れを告げ、ジープでダーディン郡のパトレ村とアダンタール村へ地震お見舞いの支援金を届けに行きました。



パトレ村までジープで行くのは初めてだったので、雨でぬかるみ、土砂崩れを起こしている道を進むのは、緊張しました。村に近づくとつれ、地震の被害で家々が崩れ、村の風景が変わっていくのがわかりました。とくに校舎は、ほぼ全壊に近く、残っている校舎の壁の一部は崩れたままで、子どもたちは、その中で授業を受けていて、啞然としました。

JNFEAから学校への地震見舞金は、事前に銀行から送金していたので、第10期生のニルマラさんのお父さんへ支援金をお渡ししました。

次に、クリシュナさんの村のアダンタールへ行きました。理事長たちが5月に訪問した時の仮設の校舎はなく、亀裂の入った校舎で授業をしているようでした。この村の出身である第10期生のチャンディカさんのお父さんへ支援金をお渡ししました。

今回パトレ村を訪問して、改めて地震の被害の深刻さを目の当たりにしました。山下ゼミ一同でホームステイをし、村の人々と交流していた思い出の場所であるパトレ村が、1日も早く復興することを願っています。(写真は、鉛筆を配る矢野さん。)(被災状況の写真は、11ページに掲載)

ネパール（ゴルカ）の地震にあって

カマラ・グルン

(第5期生 今年の留学生)

4月25日、ネパールで大きな地震が起きました。私は、その日が忘れられません。地震が起きた時、私は、弟とゴルカの町の



家にいました。私は、ベッドの下にもぐり、安全でした。お昼の12時でした。私は、何が起きたのかわからず、どうしてよいかもわからなかった。それから、私は、家の近くの博物館に行きました。そこでは、ある人は、泣き、ある人は、家族や友人に電話で連絡をとろうとしていました。私も、家族に電話で連絡をしようとしたのですが、通じませんでした。両親との連絡も取れず、私は、本当に不安でした。博物館の近くにあった多くの家は、地震のため被害を受けてしまいました。その後、私の母から連絡があり、家族は、全員無事だったが、私の家は、地震で被害を受けたことを知りました。母は、悲しみのあまり、泣き出してしまいました。その日は、食べ物もベッドもなく、地震の恐怖と寒さのため、眠ることができませんでした。私達は、一晩中、外で過ごしました。それから1週間は、屋外で過ごすことになり、私達にとって、本当にひどい時でした。

翌日、私は友人からとても悪いニュースを聞きました。私の村の、日本人のグループAAFの設計で建てられた、ブッダ・スクールが、地震により被災したというのです。その学校には、遠くの村からも、多くの学生が勉強するために通っていました。そのニュースを聞いて、本当に悲しかった。それに私の村（フィリム）にいく途中の道が被害にあって、行くことができません。途中には、ゴルカや私の村の人々の、多くの遺体があるとのことでした。ゴルカ地区の住宅のほとんどが、地震で完全に破壊している。私の家も被災し、今、私の親は、テントに住んでいます。誰もが基本的に必要なものを、手に入れることができないでいます。(2015年10月 東京にて)



山道を避難する人々



4月25日のネパールの地震の影響

隣接するダーゼインや首都カトマンズも大きな被害を受けました。 震源地はゴルカ さくら寮卒業生の多くいるフィリム村も、大きな被害を受けました。



地震の夜 さくら寮



屋根だけ残った校舎

ダーゼイン郡 アドントール村・パトレ村



こわれた校舎



仮設の校舎

ボカラ

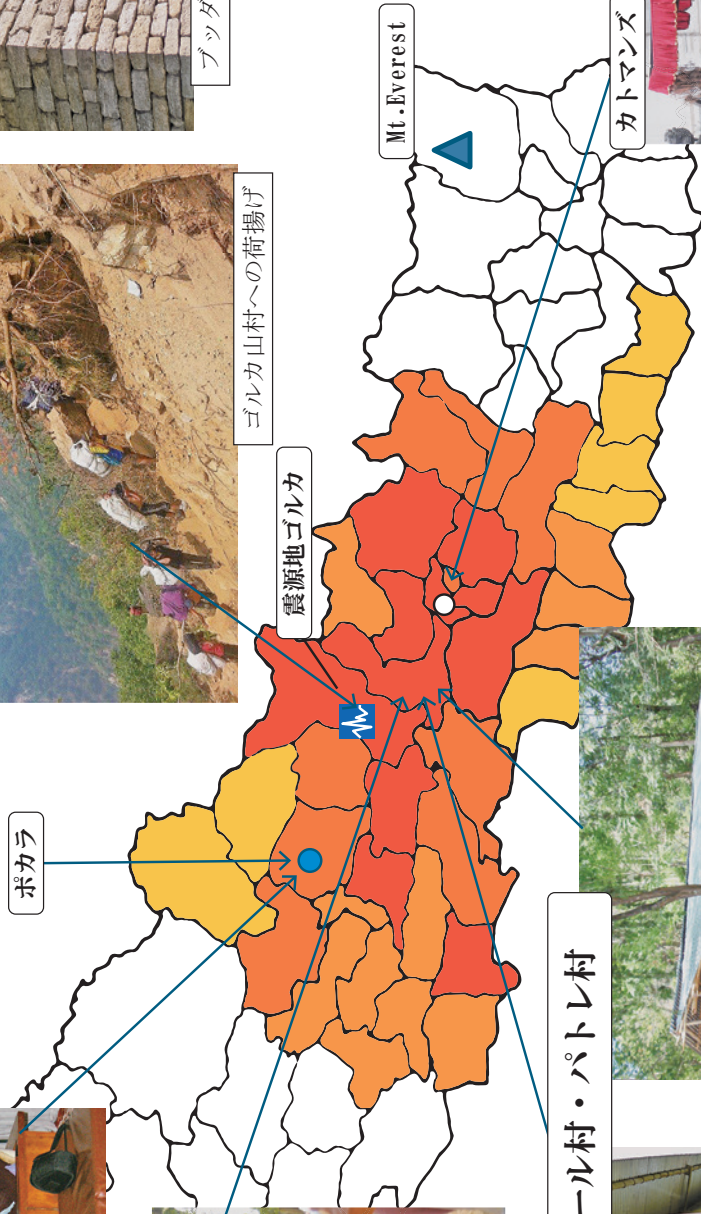


ゴルカ山村への荷揚げ

震源地ゴルカ



ブッダ・スクールも被災しました



Mt. Everest

カトマンズ



土台だけになった寺院で祈る

私たちの見た大地震被災地の様子

山下泰子 新井場貞子 岩谷栄子 矢野可穂理

カトマンズ

旧王宮前広場には、多くの寺院があり、市民の憩いの場所です。



ただ竹む理事長



広場はテント村



レンガを取り除く



仏像は残ったが...

ダーディン郡 アドンタール村



屋根だけ残る校舎



鶏小屋で生活



小屋を作る材料がない



ダーディン郡 パトレ村



どこに誰の家があったのか



壊れた校舎の中で授業再開



仮設の教室

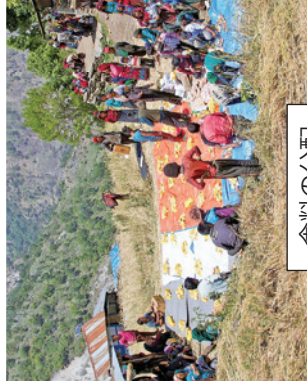
ゴルカ郡 フィリム村



救援のヘリコプター



テントで勉強



食料の分配



倒壊した家屋



大木章次郎神父様に感謝して

理事長 山下泰子

私たちの相談役・大木章次郎神父様が、2015年10月29日11時55分、練馬区上石神井修道院ロヨラハウスで、89歳8か月の尊いご生涯を終えられました。帰天される、ほんの20分前まで、シスター川岡が神父様の手をとっておられたのは、私たちの慰めになります。

神父様は、1926年1月3日、東京の信仰のあるご家庭にお生まれになり、1946年、イエズス会入会（洗礼名 トマス・アクィナス）、1956年、司祭叙階、1959～1977年、栄光学園・広島学院で教鞭をとられた後、1977～2009年まで32年間、ネパールで宣教・福祉活動に従事され、中でもポカラにネパール初の障がい児のための学校・シシュ・ピカス・ケンドラをつくられ、貧しい人々のために尽くされました。

神父様は、学生たちに、「他人のために生きなさい」と教えられたとのこと。それは、そのまま神父様が身を持って示して下さったことでもありました。慈愛あふれる神父様は、厳しい信念の人でした。マオイストの脅しにも怯むことなく、ネパールでの活動を続けられ、2009年のご帰国も、

後ろ髪引かれる想いでいらっしやいました。2014年、日本の教え子たちの尽力で、ポカラに聖マリア聖堂が完成されたのを、どんなにかお喜びだったことでしょう。

日本ネパール女性教育協会には、さくら寮の建築前から、終始、アドバイザーとしてたくさんのご助言をいただきました。ポカラ・プロジェクト理事、さくら寮生選考委員会委員として、惜しみなくお力を尽くしてくださいました。選考委員会、いつも神父様のお部屋で開催させていただき、ネパールをよくご存知の神父様のご発言は、大きな意味を持ちました。卒業式での、ユーモアたっぷりのネパール語でのメッセージも、さくら寮卒業生の胸に刻まれています。

2015年5月24日、日本ネパール女性教育協会の総会にご出席くださり、ご自身が最後の特攻隊員・人間魚雷「回天」の乗組員だったこと、出撃命令を受けてあと1と月の命というときに敗戦を迎えられたことから、平和の大切さを説いてくださいました。私たちは、神父様のこの遺言をしっかりと受けとめて生きて行きたいと思います。神父様、ありがとうございました。



第8回 Follow-Up Seminar2015 報告

理事 深田洋子 岩谷栄子

本年も現地「さくら寮」で、フォローアップセミナーを実施することができました。

担当理事の岩谷、深田と石井幸子会員の3人は、文具や教具などたくさんの土産品を持って、10月26日午後ポカラのさくら寮に着きました。

10月28日から4日間、卒業生28人の参加を得て、研修は順調に進められました。

4日間を通じて、参加卒業生全員から、それぞれの現在の教師としての仕事ぶり、成果や悩みなど報告されました。先輩卒業生やKCPの先生方から質問や助言があり、活発な研修の場となりました。サンタ・カナルさん（1期生）の教員採用試験合格体験報告、アムリタ・シャルマさん（1期生）は、国家公務員として児童福祉や家庭支援に携わっている報告がありました。スジャータ・アチャリヤさん（4期生、昨年度の日本交換留学生）からは、日本で学んだ授業方法の実践報告、また、学級担任として頑張っていること、その良さを力説し、「皆さんも学級担任になってください」と呼びかけたのが印象的でした。

卒業生たちの報告を聴いたあとで、KCPの先生、Mr.Y.Adhikari とMr.K.S.Parajuli の2人から、感想を含めた講義をしていただきました。また、KCPの新しい学長Mr..S.K. Manandhar（写真②）から講義の申し出があり、90分にわたって、教育の基本について法規を示しながら、教師の心構えを講義してくださいました。

トレーニング教師であるMs.Safara（写真③）も、土曜日に駆けつけてくれ、150分にわたって「効果的な

授業方法」を具体的に指導してくださいました。

その他、英語を専門としているというMr.Ganesh（1期生サンタの夫）による英語教育法の講義、岩谷理事の「数学の指導法」と「良い先生になるために」の授業、石井さんによる「絵手紙の実習」と「お茶のお点前の披露」、深田の「音声指導を重視した英語の授業」をしました。また、現地マネージャー・クリシュナさんの「地震災害から学ぶ」等の講義を実施しました。チャヤ・クマリさん（7期生）の「チャウパディの報告」もありました。

10月下旬、ネパールの国内事情は、インドからの石油・ガソリン輸入がストップという、難題が生じていました。今回の研修会の実施については、現地からは当初「実施困難」との連絡でした。奥地からの移動手段であるバスの運行が危ぶまれる中、参加者は少ないのではないかと、また、調理用のプロパンガスが無いこともあって、多数の参加者を受入れて、食事を提供する事の困難が予想される、とのことでした。

年1回の研修会を、何とか実施したいとの思いで、さくら寮のマンジュさんと現地マネージャーのクリシュナ氏と、何度か連絡を取り合ううち、「研修会を楽しみにしている」との卒業生の声があること、20人以上の参加の返事が届いていることがわかり、出発3日前に理事長の決断をいただき、実施が決まりました。

サンタさんは3ヶ月の乳児、アムリタ・シャルマさんは2歳の男児を連れて参加し、そして、28人もが「さくら寮」へ集って研修したことに、担当の私たちは、マンジュさん、クリシュナさんに感謝しつつ、充実感を胸に11月4日帰路に就きました。

Follow-Up Seminar 写真集



- ①作成した絵手紙を前に28人のこの笑顔
- ②新しいKCPの学長先生も講義
- ③サファラ先生の授業は楽しい
- ④久しぶりに一生懸命勉強しました。
- ⑤最後は懐かしい中庭で





④



交換留学生について

8月5日、第4期生スジャータさんと、第5期生カマラさんの歓送迎会を両国の西光寺（監事 古宇田亮順氏宅）で行いました。約50名の方にご参加いただきました。

第4回留学生 スジャータ・アチャリヤさんは、8月9日、日本を発ち、10日ポカラさくら寮に着きました。バリジャー先生への帰国報告、寮生たちへの日本留学報告をしたのち、故郷のカピルバスターへ向かいました。折からのバンダ（現在のネパール政府の政策に反対するストライキ）にあい、2日ほど遅れての帰郷でした。



日本の絵本を読む

I started my teaching job from two weeks ago. It was really glad to join this school. All my students are so happy to see me again. I am teaching in 2 grade class. There are 34 students. I am also teaching music, art and physical exercise. My all pupils are so happy. They really like my class and me. I will do my best here. I will send you some pictures later. Please send me mail when you receive my email. Thank you.



ゲームをする

Shree Janachetana Lower Secondary Schoolの校長先生は、スジャータさんの代わりの先生を1年間雇って、彼女の帰りを待っていてくれました。8月16日から、彼女は、学校に通っています。給料は少ないようですが、やりがいのある学校であると、このメールで言っていますね。日本での実習のときに、「これはネ

パールでも使える」といろいろ考えていたようで、それらを実践していくのでしょうか。日本語が格段にうまくなって、普通の会話はスムーズに話せます。現在は、家にWIFIの設備がなく、おじさんの家に行き、となりのホテルの無線を使ってスカイプしてきます。(新井場記)



第5回日本留学生です。

Kamala Gurung カマラ・グルン (1994年6月15日生) Gorka郡フィリム村の出身。さくら寮第5回卒業生。Kanya Campus Pokhara在学中。

2015年8月3日来日。日本語の勉強と日本生活に慣れるため、1か月間、横浜の新井場理事宅に滞在。8日から16日間、近くに住んでおられる阿出川俊夫会員の日本語講座を、毎日2時間受けました。朝6時から1時間はラジオの英語講座を聞きました。外出は行き方を教えて、1人で行かせました。横浜在住の会員たちの協力を得て過ごしました。日本での生活の仕方、また、1人分の料理の仕方など、コンビニの利用の仕方や冷凍品の使い方なども覚えました。8月27日、文京学院大学の寮に入り、以来12月半ばまで、国際連携教育プログラムを受講しています。このプログラムには、アメリカ、トルコ、マレーシア、ブルガリア、ネパールからの20人の留学生が参加しています。日本語の勉強、日本の文化、歴史、クールジャパンなどの講義を受け、根津神社のおみこしを担ぐなどの、貴重な体験もしました。



近くの根津神社の祭礼に参加

(支援団体からの寄稿文)

JNFEA への支援 10年間続く 全国退職女性校長会・梅の実会福祉支援活動担当 平井迦葉子

(今年の10月22日～23日、全国退職女性校長会の大会が香川県で開催されました。JNFEAへの支援報告は、パワーポイントを使って担当の平井迦葉子さんが報告をしてくださいました。以下は、平井さんが出席の会員の方に報告された原稿です。)

「NPO法人日本ネパール女性教育協会」への支援について、お話しいたします。この活動は継続です。本年度で100人の学生を迎えました。この100人目の女子学生が卒業し、その後3年間の給与を補償する平成32年度まで継続して支援することになります。

では、「NPO法人日本ネパール女性教育協会」への平成26・27年度の支援活動状況についてお知らせします。

- ①平成27年4月25日午前11時56分(日本時間同日午後3時11分)ごろ、ネパールの首都カトマンズ、ゴルカ地域で地震がありました。本会ではそのために、特別積立金の中から10万円の義援金を差し上げました。
- ②平成27年5月24日に開催された、認定NPO法人日本ネパール女性教育協会の総会に出席しました。山下泰子理事長が、「皆様のお心づくしを持参し寮生や卒業生をはじめ現地の様子を見届け、ご報告いたします」とお礼を述べていました。
- ③平成27年8月1日には今年度の福祉支援金387,500円を寄贈しました。
- ④平成27年1月26日にこの学生たちが通っているカニヤ・キャンパスの前学長のスレンドラ・B・バリジュ先生が、梅の実会本部に来室されました。その時、「全国退職女性校長会(梅の実会)5,839名の尊いご支援は、ネパールの遠い村まで届いています。今まで5年間ご支援いただき、また5年間も支援していただけることになって嬉しいです。絶対に活かして使います。今日は、関係者の皆さんにお会いできて、本当に良かったです」と述べていらっしやいました。このことにつきましては、本部だより21号とHP (<http://umenomi.sakura.ne.jp>) に紹介しています。



ポカラ便り

理事 新井場貞子

みなさまお元気ですか。ネパールはモンスーン、日本は梅雨。日本の季節の読み方はなんと優しいことでしょう。5月25日に日本を立ち、7月1日に帰国しました。

ネパールでは、首都カトマンズ、被災地でJNFEAに関係あるダーディン郡、ゴルカ郡を見てきました。そして、皆様のお志の一部を差し上げてまいりました。

まず、カトマンズはみなさまご存じのとおり、連日TVで放映されていましたが、ユネスコの文化遺産として、ネパール市民の誇る、旧王宮や寺院は瓦礫となっており、広場や空き地は、被災した市民の住居、テント村となっていました。

・5月25日 山下理事長と一緒に成田発。クアラルンプール経由、26日昼過ぎに首都カトマンズ着。

・26日 さっそく持参した200万円の内100万円をルピーに両替。昨年未までは100万ルピーになったのに、現在は円安で、82万ルピーにしかないことを嘆く。第3期のさくら寮卒業生で、昨年度の交換留学生だった、アンビカ・マラさん（ジュムラ出身）が、カトマンズで母親の入院に付添い、そのまま被災し、テント暮らしをしているらしいとのこと。臨月のお腹でやってきた（①）。被災見舞金として5万Rsと支援物資の毛布を赤ちゃん用として進呈。この2日後に出産となった。帝王切開となったので、この後も彼女たちはカトマンズで過ごし、2週間後に、アンビカさんは体調がすぐれないと言いながらジュムラに帰郷した。

・27日 7:15 4輪駆動の車で、今回の震源地ゴルカ郡に隣接する、ダーディン郡へ出発。理事長、現地マネージャー、クリシュナさん（ダーディン郡の出身）、そしてどういわけか腰痛となった新井場。まずは、とりわけ被害がひどいという「パトレ村」へ。この村

へは、かつて文京学院大学の学生たちとさくら寮の学生たちが一緒に合宿し、交流のあった村です。ハイウェイから山際に入っていく道路は、ただ、崖を切り開いただけの道。頭が車の天井にぶつかる。腰痛に最悪の状態だが、弱音は吐けない。11時ごろ、山のとっぺんにあるパトレ村に到着。

村がない。逃げて行ったのか。いや、家がことごとくつぶれ、煉瓦と砂、木材の瓦礫となっている。かろうじて一部残った学校で、授業が始まっていた。校舎は3棟あるはずだが、2棟がこわれ、残った1棟の2教室で340人の生徒が授業を始めたところ。

早速持参の義捐金10万Rsとソーラー携帯電燈、女性たちに生理用グッズをプレゼントする（②）。

ネパールの公立学校は、すべてを政府資金で賄うのではなく、半分は地元で賄うのが、普通です。家の戸数によるが、ある村では、一軒につき、年間8,000Rs負担するそうです。今回の地震による仮設の校舎建設に、政府は125,000～250,000Rs支出することですが、この何倍もの費用が実際はかかることでしょう。因みに、ネパールの国民所得は、1年約10万円とか。

・6月8日 再びダーディン郡へ。今度はクリシュナさんの故郷、アドンタール村。ハイウェイでバスを降り、300メートルほどの吊り橋を渡ったところに彼の村があります。

この村も、あらゆるところが崩れています。3年前訪ねて、穏やかな村という印象がありましたが、今は、無残にもその穏やかさがあきらめの無残な雰囲気となっているようでした。母屋が崩れ、トタンやむしろを置いただけの飼料小屋や家畜小屋に寝泊まりしています。クリシュナさんの家も亀裂が入り、



建物の中は壁が崩れています。家族は、2つある鶏小屋の内、1つに鶏を押し込めて、空いた方の小屋に一家7人が住んでいます。

私も2泊させてもらったが、鶏の匂い、金網を通して入ってくる雷光と雨にヒヤヒヤしながらも、寝ました。モンスーンとなったこの頃は、鶏小屋の住民はどうしているでしょう。

・6月9日 朝食も食わず、クリシュナさんと山2つ超えて学校を見に行くことにしました。ペットボトル1本をぶら下げて。すぐ近くのサテワティ小中高校の校庭には、JNFEAやそのほかのNGOの寄付でできたテントや屋根だけの仮設の小屋ができており、授業が始まっていました。中国からの支援でできたという、竹で編んだカベ囲いは素敵でした。

さて、山2つ向こうの小学校まで行けたでしょうか。歩き出して30分ほどのところにあった村はもちろん全滅、その小学校は屋根だけ。

山の向こうから中高校生が青い制服を着て、「ナマステ」と駆け下りてくる。まあ、どこからくるのかしら、と見渡すが、そのへんには家がない。そのまた向こうの村です、と彼が言う。気温は35度になろうとしている。2人にはペットボトルの水1本だけ、朝食も食べていない。山を1つ越えて1時間ほど、とうとう「クリシュナさん行ってきて」と、小さな村の木陰のあるところで、ギブアップ。あそこに見えるのだが、身体が動かない。居合わせたおじさんが蓆を持ってきてくれる。日陰に合わせておじさんが蓆を動かしてくれる。

太陽はジリジリ…というのはこのことでしょうね。小1時間、寝転んでクリシュナさんを待ちました。近くに水が出ているが、飲んだら大変。体中の水分が



①



②



③

出てしまうような結果になりかねません。ようやく彼が降りてきて、とにかく、さっき見かけた店へ行こうと動き始める。さっきいなかった店主がいて、助かった。ファンタ、コーク、お茶、お湯何でもいからと注文。奇しくも、若いそこの店主夫婦は、クリシュナさんのかつての教え子でした。ファンタ2.3リットル入り、クリシュナさんが、「こういう飲み物は毒なんだけど…」とご託宣を述べるのに、「今死ぬわけじゃないから…」とゴクゴク…。紅茶、お湯…なんでもいから水分を浴びて、ようやく生きかえる。

「先生、お代はいらないよ」という2人に、いくらでもいから払ってと大言壮語して、残ったファンタをぶらさげ、ただの砂糖水になったのを、2人で飲みながら帰路に着いたというわけです。

・6月10日 ダーディン郡の学校は34校あるという。昨日行った山の又山のその向こうの山…にも学校はあるという。その学校を統括しているという“Resource Person” Bekuram Nepalという元先生に、橋のたもとで会う。彼は、政府派遣の建築技術者3人と、9日間かけてそれらの学校を回ったと言う。その結果を一覧にした表のコピーをもらう。後程、JNFEAに資料として提出し、1校あたり1万Rsを義捐金として差上げた。

・6月15日 マナカマナ巡礼—そしてゴルカへ。マナカマナ寺院、カトマンズとポカラのほぼ中間にあるヒンズーのお寺。なんでも思いをかなえてくれる神様ということで、ネパールの人に大変人気のある寺です。

今年の12年生は、地震のおかげで、カトマンズ修学旅行ができなかったので、代わりにこのお寺に行くことにしました。14日に試験が終わったので、翌朝6時40分に借り上げのマイクロバスで出発。景気づけに歌など歌ってみるが、案の定30分もすると、小さい黒いビニール袋が必要になる。このハイウェイは舗装されているし、車は新車、そんなに揺れるわけがないのに、ネ



パールの人は、車酔いが酷い。約2時間で到着。ここには、ネパール唯一の長いロープウェイが、川を挟んだ山の上までかかっている。ここからがマンジュ寮母の活躍。彼女は、このロープウェイ会社の支配人と知己。さっそく事務所に行き交渉。代金のダンピング。乗ること約10分。ところが、山上の寺は、地震で無くなっている(写真①)。横に仮の礼拝所を作ってそこで巡礼者を受け付けている。こんなところで霊験あらたかなのかしらと思うが、たくさんの人が裸足で列を作っている。

ヤギを連れた礼拝者も、相変わらず多い。メエーと泣いていたヤギが、帰るときにはビニール袋にいれられて、飼主がありたく持ち帰る様子が見られる。生徒たちは、店でお供えの花や果物を買ひ、仮の礼拝所に行き、浄めてもらう(写真②、③)。思いがかなうといいねと、ロープウェイで嬉しそうに語らう生徒達。

そこから、私は、ゴルカへ帰る卒業生サビナ・グルンさんと、ゴルカへ向かった。ツリーキロという橋のたもとで皆と別れ、ゴルカ行のバスに乗る。約2時間で到着。このあたりは、20年ほど前に、山下さんのゼミの学生たちと歩いたことがある。そのころはまだ小さな町だったが、いまは、ゴルカの中心地として大きなバザールのある町になっている。5期生のカマラ・グルンさんの家にお世話になる。ゴルカは震源地の近くで、翌日山上の旧王宮を案内してくれたカマラの夫が、東の方を指して、あそこが震源地のサウラパニと教えてくれた。

この町自体は、そんなに壊れた建物は見られなかったが、周辺の旧市街の住居は、古い建物が多く、壊れている。テント村もまだ残っている。また、カマラが勤めていた学校には、使用不可の赤いビラが貼られ、生徒たちは、校庭に張られたテントで、授業を受けていた。また、ここにも中国の支援を示す「中国紅十字」と大きく書かれた、テントが張って

あった。

博物館、王宮は、屋根が崩れ、煉瓦が崩れて、瓦礫を取り除いている最中であつた。ここの唯一の観光資源である王宮と博物館の復旧を急いでいる様子が見られた。17日にフィリム(マナスル山の中継地にある標高1600mにある)に出発すると言う、2期生のマン・クマリさん(写真)とその息子に会ったが、懐かしく、いつまでも手を握って、わからないネパール語で話しかけてくれ、それもまたうれしかぎりであつた。

彼女と夫、息子、そしてサビナ・グルンさんは、17日に出発し、25日にフィリムに着いたと言うことだ。私も、彼女たちについて行こうかなと思つたが、いつもは3-4日で行くところを、倍の日数かかったということは、道が崩れ、遠回りをして行つたのであろう。私の行ける道ではなかつた。そこでは、さくら寮卒業生や現役生たちの家が被災していると言う。また、竹中工務店の有志が作った立派な学校も被災したということだ。

・6月17日 路線バスでポカラへ帰る。遠慮していたら座席が取られてしまうから、遠慮しないで大きな態度で座る。運転手はスピード狂(?)、普通は4時間かかるところが、安全に3時間でポカラに着いた。



たくましいゴルカの先生

2016年 訪問授業および赴任地訪問の予定

理事 今村美知子

①訪問授業 2月19日～3月初旬に、実施します。

音楽の指導法：今村 務



ネパールの子どもの歌を使つての「音やリズムなど」の指導法から始めます。自分たちの国の歌なので、毎年スムーズに導入することができます。そして、諸外国の美しい歌を紹介し、学生たちがそれらを身につけるための実践を行います。今回は、初めて音楽を学ぶ学生が第10期生です。楽しく学んで欲しいと思っています。今回も12年生が11年生に、前もって歌を教えておいてくれる予定なので、さらに高度な授業を考えています。

楽しく学ぼう：理事 今村美知子

楽しい学習は、子どもたちの「やる気」「意欲」を引き出すことができます。そのためにもクラスの子も全員が、できる限り平等に活動できる授業を組み立てることが大切です。そこで、音読や作文指導・計算をゲームの要素も入れながらの授業の仕方、そして、クラスの仲間関係を作っていくゲームの紹介などを、実際に学生たちに体験させて、地域性などを考え、さらなる授業の工夫について話し合っていきたいと思っています。

防災について：理事 吉田英子

2015年に起こったネパールの大地震。大きな被害がありました。そこで、今回は、防災について、考えていきたいと思います。避難訓練なども、学校で行う必要もあるのではないのでしょうか？みんなで考えてみたいと思います。

- ・大地震に備えて（地震発生その瞬間、発生直後の行動屋内と屋外の対応、NG行動…）
- ・大雨、集中豪雨、落雷に備えて
- ・応急手当について
- ・学校での避難訓練について

②「ネパール児童絵画教育プロジェクト」の金斗鉦さんのグループが、2016年3月12日に訪問し、絵画教育の指導をしてくださる予定です。

③赴任地訪問、福島理事が11月10日から6期生のBajura、Acham、Doti郡の学校訪問を予定していましたが、ネパールの国内事情（石油、ガソリン不足のため交通機関が不安定）により2016年1月に変更。3月には袖山理事による極西部Daruchula、Baitadi、Dadeldhura郡の学校訪問を予定していますが、事情により延期の可能性もあります。

〔理事会コーナー〕

「さくら寮10周年記念チャリティ・ツアーのご案内」

2006年8月に、さくら寮入寮式典を挙げて、来年で10年になります。そこで、2016年10月、さくら寮10周年記念の報告会と記念式典を予定しています。サランコットの丘に、現地理事の宮原巍さんが新築しているホテル・アンナプルナ・ビューで、瀬尾真喜子さんのピアノ・コンサートとレセプションも開催します。

つきましては、最高のツアーを企画いたします。詳細はチラシをごらんください。

【日程】2016.10.14(金)-10.23(日)10日間

Aコース<ヒマラヤで満月を楽しみ、ポカラへ>(ヘリコプター利用・ホテル・エベレスト・ビュー2泊)

旅行代金：418,000円

Bコース<チトワン・サファリとルンビニから、ポカラへ>(象にのってサファリ・お釈迦様の生誕地へ)

旅行代金：346,000円

【さくら寮10周年記念行事】

10.19. さくら寮で、プロジェクト10年の軌跡・卒業生による報告会(ホテル・アンナプルナ・ビュー泊)

10.20. ホテル・アンナプルナ・ビューで、記念式典、コンサート・レセプション(ホテル・アンナプルナ・ビュー泊)

【日本・ネパール国交樹立60周年行事】

10.21. 夕：カトマンドゥ日本大使公邸で、瀬尾真喜子ピアノ・コンサート(交渉中)

*お問合せ・申込みは、ヒマラヤ観光開発(株)丸山節子さん(T:03-3574-9292,F:03-3574-6957)

*ご相談は、日本ネパール女性教育協会・山下泰子まで(T/F:03-3922-0476, yyyasuko@nifty.com)



故郷を再興させる—私の決意

現地マネージャー クリシュナ・カティワダ

私の村は、Dhading 郡Adantar村。カトマンズからバスで3時間、ポカラからも同じくらい。地震の震源地に隣接する郡のため、大きな被害を受けました。村の家の6割は全壊、形は残っていても家の中は危険な状態です。私の家も形はあるが、壁は亀裂が入り危険な状態です。私は、ここで生まれ、育ち、私の家族は、この村に住んでいます。私は、この村を愛しています。何とかして、この村を再興させたいと思います。



Dhading郡の村づくり計画

村でやるべきことは、山積みです。大地震後は、国から各戸が15,000ルピーもりましたが、ほかには何も手だてはありません。牛小屋や鶏小屋で生活している人たちは、そのままです。鶏小屋や牛小屋がない人たちは、もっと苦しい生活をしています。

もうすぐ冬がやってきます。仮住まいの家の生活は、夏はよかったかもしれませんが、冬は寒くて困ると思います。そのために何かやりたいですが、個人の力では何もできません。

ラッキーなことに、私の村の学校は、JNFEAの支援で、子どもたちは教室の中に入って勉強することができるようになりました。他の34校の学校の子どもは、冬は大変だと思えます。

Dhading郡はこのような厳しい状況の中にありますが、私はDhading郡へ戻って、まずこのような問題解決に向けて何ができるか検討します。そのためには一緒に働くチームが必要です。また、一番大切なのは、お金です。自分の生活もあります、その中から何がどこまでどのようにできるかをバランスを、とってやっていきたいです。

村の発展のことを考えると、もう一度Doti郡のSalada村のことを思い出します。偉い神様がいて、チャウパディの慣習を壊せば、その神に怒られて村や家族に不幸があり、人が病気になる。だから、生理中の女性が、家の中に入れない、美味しいものは食べられないというのは、おかしい習慣で、女性はかわいそうです。先生をやっている人が、自分の身体づくりをわからないのは、教育が良くないからだと思えます。人間を苦しませて喜ぶ偉い神様なんて絶対にいないし、いるとしたらその神様の意味がない。今回の訪問の際に、この話を少ししました。神様が怒るといふのは、単なる怖がりです。別々の生理小屋に入っていた、3人のあの若い女の子たちの暗い顔を思い出すと、女性がかわいそうです。改善は、簡単ではないと思えます。私たちのところはここまで厳しい状況ではありませんが、お金と手当てがないのは、問題です。何とかできることを頑張っていきたいです。



クリシュナさんの家



左は 2012 年に訪問した時のクリシュナさんの家。右は、倒壊の危険があるので、外で寝ている。

“クリシュナさんについて”

(クリシュナさんは、JNFEAの現地マネージャーとして、さくら寮開設当初から、私たちと一緒に働いてきました。その彼は、今回の大地震に遭遇し、自分の家も村も大きな被害を受けました。以前は、村の学校の開設のために働いた彼です。この際、再び、村の再興のために働く決心をし、また、村人たちもそのことを期待しています。JNFEAの仕事は、卒業生の赴任地訪問等のときは、同行するという取り決めをし、いったんは11月をもって現地マネージャーの職を辞することになりました。得難い人を失いますが、彼とともに村の再興を祈りたいと思います。クリシュナさん、ありがとうございました。)

Topics & News

平成27年度 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞

6月24日、当会の山下泰子理事長が、上記の表彰を受けました。永年にわたり「女性差別撤廃条約」の研究と普及に携わり、女性の権利と地位の向上に尽力したことが認められての表彰です。おめでとうございます。

Bijay Dhoju さんの絵画指導

写真の男性は、寮母のマンジュさんの弟です。美術の先生です。さくら寮の学生たちに、絵画教育、パネルシアターの作成の指導をしています。学校の都合や、今回の地震などで、授業が休講になったときには、とくにお問い合わせいたします。このほかにも、フォローアップや卒業式などの行事の際に手助けをしてくれます。今回のフォローアップ研修の実施については、大変お世話になりました。寮のPCが故障、というときには駆けつけてくれます。もう一人の弟Bicramさんも、普段はカトマンズで会社勤めですが、ポカラに帰ったときは、さくら寮の手伝いをしてくれます。さくら寮の学生たちは、マンジュさんの家庭に呼ばれて、お母さんのおいしい料理をごちそうになったりします。マンジュさんの一家あげてのさくら寮支援には感謝、感謝です。(新井場記)



国際交流ボランティアみなとグループからのご支援

10月2日、横浜の「カナックホール」でチャリティ演奏会が開催され、新井場、磯、宮坂の横浜3人組が聞きに行きました。ロシアのオペラ歌手、オクサーナ・ステパニユックさんの、コロラトウーラ・ソプラノという、きれいな高音の歌唱を楽しみました。今回もコンサートの収益金の一部をJNFEAにご寄付いただきました。

「一冊の会」50周年記念の集い

10月25日、目黒の雅叙園で上記の記念式典が開催され、JNFEAも招待を受け、新井場貞子副理事長が、理事長代理で出席しました。たくさんの方が訪れて、会場はあふれるばかりでした。「一冊の会」会長の大槻明子さんが、1965年に始めたNGO活動で、読み聞かせ親子一体の輪読リレーを契機に、年間一人一冊の献本運動を行ったのが始まりです。開発途上国への文房具のプレゼント、国際交流、そして女性の人権の確立のための活動と広がり、50年を迎えました。JNFEAには、何度も鉛筆を寄付して下さり、ネパール遠隔地の小学生たちに配布し、喜ばれています。ますます若いスタッフとともに世界の平和のために、力を発揮して下さるよう、大槻さん、頑張ってください。この席で、JNFEAへ寄付金の贈呈がありました。

「サラダ村」では、チャウパディ問題は？

矢野可穂理事とクリシュナさんは、毎日新聞の「ネパールの女性について」の取材に同行して、3年前に訪ねたサラダ村を訪問しました。2年前にも、新井場理事が訪問し、生理時の女性を粗末な小屋（チャウパディ）に隔離することの非合理性を、村の人に説き、この慣習をなくすように訴えてきました。2年前に韓国の援助で各家にトイレができて、この問題も好転するのを期待しましたが、今回の訪問で、少しも好転していなかったようです。2人の報告によると以下のようです。

サラダ村では、飲み水問題は水道が引かれても、水源に問題があり、まだしばらくは水が出ないので、以

前そのまま川の水を飲んでます。水の問題が解決しないので、トイレができてても清潔に掃除するのは難しい。そのトイレは生理中の女性は利用禁止。生理中の人に触れたらトイレも穢れになるという、古老（女性）の話です。大きな神様が怒るから、生理中の女性は家には、入れません。また新たな生理小屋ができていて、私たちが、サラダ村へ行ったとき、10代の子が3人生理小屋に入っていました。

「さくら寮特集記事」が「毎日新聞」に掲載されました

5月のJNFEAの総会に出席なさった、毎日新聞の武内彩記者と幾島健太郎カメラマンが、ネパールの少女をとりまく問題について、現地取材をするについて、JNFEAは協力をしました。チャウパディ問題については、3年前に調査した経験のある矢野可穂理理事とクリシュナさんが、サラダ村に同行しました。また、さくら寮での取材には、矢野さんがちょうど滞在中で、さくら寮生の取材に協力しました。取材記事は、10月9日から11月1日まで、9回にわたって連載で掲載されました。とくに、連載最終日の11月1日には、「学ぶのを諦めない」という表題で、第10期生のゴマ・ガレさんがとりあげられ、また、それとは別に11月22日には「先生が私の未来」という表題で、見開き2頁全面を使って、さくら寮が特集されました（関西版）。

ネパールの燃料問題

10月から、ネパールでは、ガソリンやプロパンガスが、唯一の輸入経路であるインドから入ってこなくなり、自動車や食料の調理に大きな問題が出ています。山間部では、まだ薪を使うという方法がありますが、ほとんどの町では、プロパンを使っていますし、レストランなどでは、大きな問題です。車のナンバーで給油できる日を決めたり、いろいろ対策を取っていますが、タクシーの値段も、あらゆる物価が高騰し、市民生活に大きな影響が出ています。問題は、ネパールの新憲法に対する反対があり、インドとの国境付近での政治上の問題があるようです。クリシュナさんが、以下の写真を送ってきました。

プロパンガスのボンベが、広場いっぱいにならんでいます。充填の順番（写真①）待ちです。移動する車の屋根の上も奪い合いとのこと。さくら寮では薪でご飯を炊いています（②③）（2015年12月5日現在）。



白板の贈り物

ゴルカ郡のフィリム村に行く途中に、ある村で、校舎がつぶれて、臨時教室を開こうにも、白板がないというニュースがネパール滞在中の新井場のもとに入ってきました。今回の留学生カマラ・グルンさん(5期生)の知人が勤めている学校です。このニュースをJNFEAに流したところ、寄付するという会員が連絡してきました。早速連絡したら、とても喜ばれて、購入の写真と礼状が届きました。これこそ、草の根の交流だと嬉しく思ったものです。手渡しているのは、カマラ・グルンさん（左端）。



文京学院大学の学園祭に参加

10月17、18日、昨年に引き続き、JNFEAは文京学院大学学園祭に参加しました。今年は、ネパールと文京学院大学との関係を紹介するのがメインにしました。山下理事長が当大学で教授だった時期に、ゼミ生を連れてネパールを14回訪問しています。そして、今回の4月の大地震で大きな被害を受けたパトレ村では、3年間にわたり、ゼミ生とテント暮らしやホームステイをしながら、村人と交流しました。それらの思い出、



また、島田燦子文京学園長等が寄贈した校舎やトイレ、水場は全壊しました。地震前、地震後のパトレ村の様子を写真で紹介しました。学生たちのにぎやかなイベントと違い、地味ですが、不便な場所にもかかわらず、関心を持ってくださる方もあり、詳しくネパールを知りたいという方もありで、有意義な参加だったと思います（写真は参観者に説明する理事長）。

クリシュナ日記 新しい国作りを考える

現地マネージャー クリシュナ・カティワダ

9月16日、ネパール制憲議会は、新憲法を採択し、20日に公布しました。8年の年月がかかりましたが、ネパールはこれで、名実ともに連邦民主共和国になったわけです。

ネパールは、凄く大きな変化も静かに実現できる国です。王国から共和国になるというのは、世界歴史をみてもこんなに簡単にできることではない。憲法改正委員会で憲法を作ることも、楽な仕事ではないですね。これを考えると、ネパールは、よくやったと思われているそうです。

この憲法ができたことだけでも、大きな変化です。これにより、7つの州が誕生しました。今までの国政のやり方が変わります。各州は、州ごとにポリシーをつくり、自立や発展のために、地方なりに力を出し合って頑張れば、政府に頼らなくても済むと考えられています。しかし、今のところ目で見えるような、また肌で感じるような変化はありません。タライ地方の人たちは、この憲法の中に自分たちの権利が抜けているということで、2ヶ月ほど前からストライキをやっています。そのおかげで、国境が不安だということで、インドから自動車が入ってこなくなり、燃料も石油もストップされている状態が続いています。北側の中国は、自分の国から買わせたいようですが、距離的に遠くて、簡単にできることはありません。

7つの連邦と新しい憲法ができました。国民によって選ばれた憲法改正委員会が憲法を作り、その改正委員会が、今は国会に変化しています。そこで新しい政府もできました。この新しい政府は、7つの州のイメージをしながら、前に進んでいます。しかし、憲法もルールもうまく生かせるか、成功か失敗かは、これからのやりかたによります。この憲法でよくなるか、だめになるかは、今すぐには分かりません。しかし、このような憲法ができたことは、民主主義の第一歩であることは、間違いありません。

Nepal あれこれ



ポカラにある女性だけの袋物縫製工場です。糸をつむぐことから、捺染、織り、縫製、販売と女性だけで経営しています。目の見えない人も糸を束ねる仕事をします。素敵なかわいいバッグが出来てきます



さくら寮通信

(2015年4月ー2015年8月)

4月

- ・1日 KCP の2学期の試験が行われているので、学生たちは勉強に励んでいる。
- ・2日 寮母は卒業文集をまとめるために、印刷会社へ行った。
- ・4日 学期試験終了。12年生を、はじめてスーパーマーケットへ同伴。その後、Bijayさん(寮母の弟)が寮生に授業(絵画の基礎)をした。
- ・5日 政党が3日間のソトライキを通告したので、寮生たちは、仕方なく寮にいる。皆で裏の畑に苗を植えた。
- ・6日 KCPでは、12年生の卒業パーティーを13日に行う。寮生は、ダンスを披露することになり、一日中練習をした。
- ・8日 KCPでは、授業が再開。12年生の授業は終わっている。
- ・9日 国の教員採用試験が発表されたので、寮母は、バリジョウ先生、クリシュナさんと受験講座をJNFEA主催で開催することについて相談。
- ・11日 休日なので、寮生は浄水タンクの清掃。映画鑑賞の後、Bijayさんが絵画の授業。寮生たちは、絵画の基礎を身につけてきている。
- ・13日 KCPでは、12年生の卒業行事を開催。
- ・14日 2072年の元旦なので、ご馳走を食べてお祝いをした。
- ・17日 12年生の英語学校の受講は終了。11年生はもう1週間受講する。
- ・25日 土曜日で大学は休み。日中、突然大きな地震に襲われた。寮生たちは、2階と3階にいたが、外に飛び出した。みんな叫んでいた。約90秒間、これまでに経験したことのない大きな揺れだった。その瞬間、私たちはもうだめかと思ったが、幸いポカラでは被害はあまりない。30分ほど外にいてホールに戻る。しかし、また、数分後に再び大きく揺れ、私たちは、その日はずっと外に居ました。その後、TVで崩壊した家屋、寺院、行方不明者等、全国的な大被害の状況を見て悲嘆にくれた。その夜は、一階で過ごした。
- ・26日 今日になっても私たちは、ショックから立ち直れない。寮生のいる家族に電話をした。幸いネパールの西部地域は、無事。TVで地震の被害状況をみて、一日中、怯えていました
- ・27日 私たちはずっと寮にいた。多くの学校が崩壊したので、統一試験は延期になった。今日も、一階で過ごし、寮母と寮生21人、一緒に寝た。
- ・28日 卒業生のLaxmi Devkotaは、政府雇用の教員試験の受験塾に通うため、カトマンズに居た。テント暮らしをしていたので、さくら寮へ来るように、話した。
- ・29日 Laxmiが寮へ到着。
- ・30日 私たちは、まだ何も考えたり、予定を立てたりできない状態で、地震におびえている。

5月

- ・1日 地震の不安がまだ続いている。教育庁は統一テストの延期を決めた。皆寮に留まっているしかない。
- ・5日 統一テストの日程が未定なので、寮生たちは、故郷へ帰りたいがっている。バリジョウ先生に相談したが、許可されなかった。

- ・8日 寮生たちは、裏の畑を耕してトウモロコシを植えた。
- ・9日 ホールのカーテンの洗濯と各部屋の掃除をした。
- ・12日 地震の恐怖からやっと回復した。が、正午頃、またも大きな地震があった。みんなあわてて外へ走り出した。夜は、再び一階でみんなで寝た。
- ・13日 教育庁がテストの予定を発表しないので、寮生たちは、故郷へ帰りたいとせがむ。
- ・15日 寮生は何もすることがない。今日はLaxmiの誕生日。カトマンズの地震で大変な経験をした後なので、パースデーケーキを用意し、お祝いをした。彼女はとても喜んだ。
- ・16日 ホールの床を掃除し、図書の本の整理をした。その後映画を楽しんだ。
- ・19日 教育庁が統一テストの日程を、「6月1日から」と発表した。
- ・23日 12年生は統一テストのための勉強。寮母が勉強のアドバイスをした。
- ・24日 11年生は、庭へ通じるベランダの掃除をした。
- ・25日 卒業式がすべてキャンセルになった。卒業生は「マナカマナ寺院」を訪ねたいというので、Bharijoo氏に相談し許可された。実施は統一テスト後になる。
- ・28日 山下さん、新井場さん到着。

6月

- ・3日 政府雇用教員採用試験受験予備校に通うSushila RawatとSanjuとParbatiとSita BKに銀行から送金した。
- ・12日 12年生の英語科の学生のテスト終了。各部屋を掃除。
- ・13日 12年生のテストが終了したので、ささやかな卒業祝賀会を用意した。Bharijoo氏とKrishnaさんも参加。Bharijoo氏は、母校に赴任したら、4ヶ月ごとに報告書を送ることについて、説明した。その後モモパーティをした。卒業生は、大いに楽しんだが、11年生は試験がもうすぐなので勉強しなければならなかった。
- ・14日 卒業の第8期生に帰郷旅費を支給。彼女らは、チケットの購入と買い物、部屋の掃除をした。
- ・15日 マナカマナ寺院へ遠足。何人かは、車に酔って嘔吐した。昼食後、ポカラに戻り、寮に新しく届いていた食器戸棚と書類戸棚を定位置に据えた。新井場さん、サビナと一緒にゴルフへ。～17日まで。
- ・16日 卒業生の何人かが、早朝、寮を離れ、故郷へ戻った。残りの卒業生も帰郷。11年生の試験が、昼、始まった。
- ・20日 新井場さんが、卒業生のレポートを点検した。
- ・22日 新井場さんは、早朝ムスタンへ向け出発。～26日帰寮。
- ・26日 11年生試験終了。
- ・27日 11年生の8人は、故郷へ向け出発。PremaとNishaは、遠いので帰郷できない。

7月

- ・2日 Kamala Gurungが寮に到着。日本大使館に提出する書類作成。
- ・3日 寮母とKamalaは、日本滞在のためのサリーなど、買い物に出かけた。
- ・4日 SLCに受かった少女が、叔父さんとドルパから奨学金応募のために寮に来た。寮母はさくら寮のプロジェクトについて、説明した。
- ・5日 12年生が、1週間の休暇を終えて、村から帰寮した。
- ・7日 岩谷さんが、寮に到着。選考委員会の会議の計画を

- した。
- ・8日 選考委員会が行なわれた。学生は、算数の試験を受けた。
- ・9日 早朝、岩谷さんは、ダーディン郡に移動。
- ・11日 政府雇用教員採用試験実施。KamalaとLaxmiは、試験のために興奮していた。試験後、Kamalaは、ゴルカへ帰る。
- ・12日 12年生は、カイラリ郡から来た、パルパチィ・タバを新しいコーディネーターを選んだ。
- ・13日 ゴルカとジャジャロットから、すでに、学生が到着。彼女たちは12年生としてKCPに行った。
- ・14日 ドルパからの2人から報告を受け取ったので、給料を支払った。
- ・15日 何人かの新さくら寮生が、両親と一緒に寮に到着した。
- ・17日 ほとんどの新さくら寮生が寮に到着した。寮母は歓迎のための計画をたてた。
- ・19日 新さくら寮生歓迎のための買い物をする。その後、食事を作った。Bharjioo先生も寮に来て、JNFEAと学生の責任について説明した。
- ・20日 寮母は新しいパソコンを購入し、新入寮生に英語とピアノを教えた。Bijayさんは簡単な絵を描く方法を教えた。
- ・21日 寮母は、英語とピアノを教え、Bijayさんは、芸術を教えた。
- ・22日 新入生の写真を撮った。正午裏庭からトウモロコシを収穫。
- ・23日 新入生は、私物の買い物に寮母と出かけた。
- ・24日 新入生の制服のクルタを準備しなくてはならない。しかし、最近クルタをあまり着用しないので売っている店がなく、やっと1店見つけて買った。
- ・25日 今日は土曜日なので、学生は映画を観た。その後台所の掃除。12年生は英語で紹介することができるようになった。
- ・26日 学生は、ほとんどピアノでレッスンフィリイリ

- を弾くことができるようになった。また絵のクラスにも関心を持つようになった。
- ・27日 寮母は、新入生を検査のために、マニパルの病院に連れて行った。前年と同様にHIVエイズと結核とB型肝炎の検査をしたが、病院はとても混んでいた。
- ・28日 寮母は、英語と音楽の授業をした後、新入生の検査結果をとり病院に行った。全員健康。
- ・29日 クリシュナさんが新入生に折り紙を教えた。夜、スニータが寮に来て、教員試験予備校のための1万ルピーを受け取った。

8月

- ・1日 マンジュ寮母が英単語指導。
- ・2日 11年生のKCPの授業が始まった。
- ・7日 11年生が、外の水タンクを掃除した。
- ・8日 Davids FallとGupteswor Caveへみんなで出かけた。
- ・10日 留学していたSujataが日本から帰国した。日本での体験を寮生に報告。
- ・11日 Sujataは、日本での1年間の体験をプロジェクターで説明。
- ・15日 休日なので、新寮生をBlndhyabasini寺院へ寮母が引率。
- ・18日 山下威士さんからプレゼントされる辞書、を購入し、新入寮生に配った。
- ・22日 寮で皆で映画を楽しんだ。
- ・27日 山下理事長、山下威士さん到着。
- ・28日 現地理事会開催。その後「二十四の瞳」の映画を観る予定が、技術的なトラブルで観ることができなかった。山下理事長がその内容を説明。その後、皆で、タカリキッチンで夕食。
- ・29日 山下理事長が10期生全員に面接をした。
- ・30日 今日はGaijatraと呼ばれるボカラの祭りの日。ネワールの人々が踊りを披露した。寮生にとって初めて見る踊りだったので、とても楽しんだ。

JNFEA活動報告

4月

- ・13日 活動推進会議 大泉資料室
- ・15日 会計監査 文京学院大学
- ・18日 総会案内送付 コンパートメント
- ・26日 第13期第3回理事会 文京学院大学
- ・30日 会計処理 大泉資料室

5月

- ・8日 活動推進会議 大泉資料室
- ・24日 総会 文京学院大学
- ・21日 総会資料作成 大泉資料室
- ・25日 山下理事長、新井場理事ネパール地震災害見舞出張
ネパール・ポカラ

- ・28日 官公庁関係書類届出
東京都庁第一本庁舎、都法務局、本郷税務署
- ・30日 会計処理 大泉資料室

6月

- ・3日 官公庁関係書類届出 東京都法務局
- ・8日 総会資料発送準備 大泉資料室
- ・9日 総会資料発送 大泉資料室
- ・13日 第8期生卒業証書授与式 ネパール・ポカラ
- ・14日 第13期第4回理事会 コンパートメント
- ・15日 第8期生 マナカマナ寺院へ日帰り旅行

- ・16日 第8期生帰郷
- ・19日 SLC合格発表 ネパール
- ・24日 小金井ソロプチミスト新旧交替式出席
小金井市商工会館

- ・24日 山下理事長の男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰
首相官邸

- ・27日 スジャータ 地域市民文化交流講演会
- ・29日 NGO向け「草の根技術協力事業の制度説明会」 JICA
- ・29日 現地運営委員会 さくら寮
- ・29日-7月5日 第9期生一時帰郷
- ・30日 会計処理 大泉資料室

7月

- ・6-12日 岩谷理事が選考委員会に向けてネパール出張
ネパール・ポカラ

- ・7日 外務省国際協力局国別開発協力第二課 外務省
- ・8日 さくら寮第10期生選考委員会 さくら寮
- ・11日 ネパール教員採用試験(中学・高校)実施 ネパール
- ・23日 活動推進会議 大泉資料室
- ・30日 スジャータ ふじみ野寮退寮
- ・30日-8月10日 スジャータ 新井場宅ホームステイ
- ・29-31日 山下理事長、北軽井沢、長野原町燻恋村あいさつ
- ・30日 会計処理 大泉資料室

8月

- ・3日 カマラ・グルン 来日 新井場宅ホームステイ

- ・5日 カマラ、スジャータ歓迎会 西光寺
 - ・10日 スジャータ帰国
 - ・19日 活動推進会議 大泉資料室
 - ・25日 山下理事、現地理事会のためネパールへ
 - ・28日 カマラ、文京学院大学国際連携プログラム開講式
 - ・28日 現地理事会 ポカラ
 - 9月
 - ・3日 JICAホップステップ事業説明会 JICA
 - ・3日 会計処理 大泉資料室
 - ・10日 矢野理事、ネパール出張 ネパール
 - ・12日 第13期第5回理事会 コンパートメント
 - ・9月 半出前授業（保健体育）矢野 ネパール
 - ・17日 JICA申請相談 JICA
 - 10月
 - ・5日 カマラ、梅の実役員会挨拶 梅の実会事務所
 - ・6日 JICA申請の検討 コンパートメント
 - ・7日 文京学院大学祭打ち合わせ 文京学院大学
 - ・7日 HP編集会議 コンパートメント
 - ・13日 JICA申請検討 コンパートメント
 - ・16日 文京学院大学祭打ち合わせ 文京学院大学
 - ・17-18日 文京学院大学祭 文京学院大学
 - ・20日 JICA申請相談 JICA
 - ・21日 JICA申請検討 大泉資料室
 - ・22日 ニュースレター編集会議 二子玉川
 - ・23日 JICA申請検討 大泉資料室
 - ・25日 「一冊の会」50周年記念の集い 雅叙園
 - ・26日-11月5日 岩谷、深田理事、フォローアップセミナー出張 ネパール
 - ・28日 JICA草の根技術協力事業申請書提出
 - ・29日 大木神父様ご逝去
 - 11月
 - ・2日 大木神父様通夜 聖イグナチオ教会
 - ・2日 会計処理 大泉資料室
 - ・5日 ニュースレター編集会議 渋谷区男女共同参画センター
 - ・15日 活動推進会議 コンパートメント
 - ・26日 東芝国際交流財団訪問
 - ・29日 第13期第6回理事会 コンパートメント
- 〈コンパートメント東京中央は「コンパートメント」と表記〉

編集後記

地震の惨状を目にした者として、多くの方々のご寄付して下さったのに、お応えしなければならぬという思いがいっぱい、盛りだくさんの記事になりました。 新井場貞子

建物も崩壊し、必要なものが手に入らない困難な状況の中学校が再開され、子どもたちが壊れた校舎の中で、懸命に勉強をしている様子に心打たれました。

学校は、勉強だけではなく、子どもたちの心の癒しの場。けなげな子どもたちの姿は、周りの大人たちをも、元気づけてくれますね。子どもたちに、心からエールを送りたいと思います。 佐伯律子



郵便振替口座 00130-4-370983 (口座名) NPO法人日本ネパール女性教育協会
 個人会員：3,000円、個人賛助会員：10,000円、学生会員：1,000円、法人賛助会員：50,000円（いずれも年会費）
 里親基金：月額5,000円、年間60,000円、5年間合計300,000円（ただし、月額1,000円より可）

特定非営利活動法人日本ネパール女性教育協会(JNFEA)

理事長：山下泰子

本部：〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学

ポカラ寮：Sakura Dormitory, Kanya Campus Pokhara, Nadipur, Pokhara, Nepal

P.O Box 192 Tel:977-61-541649

事務局長：岩谷栄子 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-24-1-1001 Fax 03-6222-3824

E-mail: iwatani@r3.ucom.ne.jp ホームページURL:<http://www.jnfea.net/>

編集委員：新井場貞子 岩谷栄子 佐伯律子 吉田俊吾 山下紗衣